

平方の「金塚伝説」

高崎 力

平方と大泊の境に、かつては「会の川」が流れていた。その名残が大泊側の人々から「せどっぼり」（漢字にすると「瀬戸堀」か）と呼ばれた堀である。念仏橋通りと堀との交差する地点には比較的長い石橋が戦後まで架かっていた。すぐそばに「石橋」と呼ばれた屋号の家（大泊側）が道路西側に今でもある。その平方側の山谷（さんや）には地元では「金塚」と呼ばれた石塔が今でも建っている。その金塚についての言い伝えがある。

昔、戦をおこなっていた侍たちが乗っている船がこの会の川を通ったが、嵐のために難破し、乗っている侍たちは亡くなった。そこで侍たちを葬り、供養するための石塔を建てた。これが金塚の石塔である。石塔の名の由来は、沈没した船には金銀財宝があったとの言い伝えがあつて、このように呼ばれるようになったのであろう。

以上の伝説より、地元の人々は、今でもこのあたりから北にある県道にかけての地域を俗に「金塚」と呼んでいる。

金塚の石塔は、以下の通りである。（加藤幸一著の石仏資料より抜粋）

平成22年6月7日

(23) 富士合成工業そばT字路

67. 六十六部廻国塔（『越谷市金石資料集』に掲載なし）
所在地 平方・旧土手道西側突き当たり路傍（富士合成工業そば）
石塔型式 角柱型（東向き・高さは中）
年号 宝永六年（一七〇九）

〔左側面〕
〔塔基〕 于時宝永六己丑年十月吉日願主伝心
丘 比

〔正面〕
〔塔〕 奉納大乘妙典六十六部日本回國
※正面の梵字は「キリーク」

〔右側面〕
〔塔基〕 武州新方領平方村司主惣旦那中

〔裏面〕
三界萬靈六親眷属七世父母等

※地元では、この石塔を「金塚」（かねづか）と呼んでいる。

※富士合成工業の場所は、現在、住宅地に変わっている。

